

横浜市インフルエンザ流行情報 3 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》 インフルエンザ注意報が発令されました

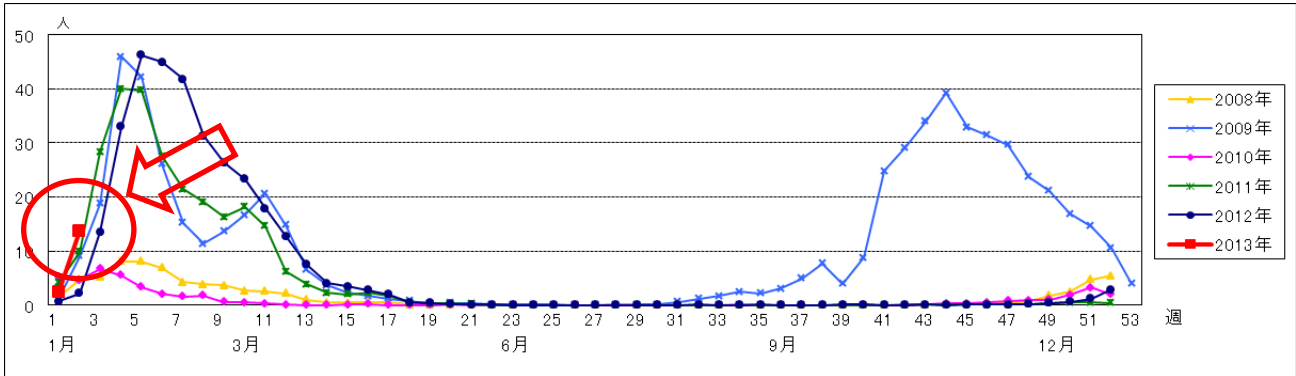
【概況】

第 2 週(1 月 7 日～13 日)に定点^{※1}あたり **13.71** となり、注意報が発令されました。年齢層別では 10 歳未満の患者が最も多く報告されています。市内ウイルスの検出は AH3 亜型(A 香港型)が多く、全国^{※2}と同様の傾向です。

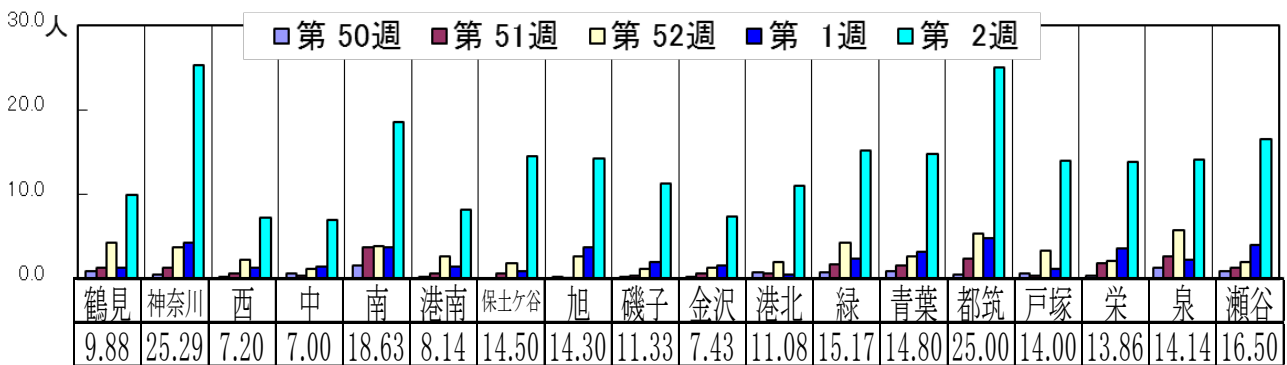
インフルエンザの予防では、手洗い、うがいを心がけ、人混みを避け、規則正しく生活するなどの健康管理が大切です。もしインフルエンザに罹った場合は、早めに医療機関を受診^{※3}しましょう。

- ※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 152 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
- ※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)
- ※3 [平成 24 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

1 市内流行状況: 第 2 週に定点あたり 13.71 となり、注意報レベル(10.00)を上回りました。第 1 週の 2.35 から急激な上昇です。昨シーズンより 1 週早い注意報発令です。

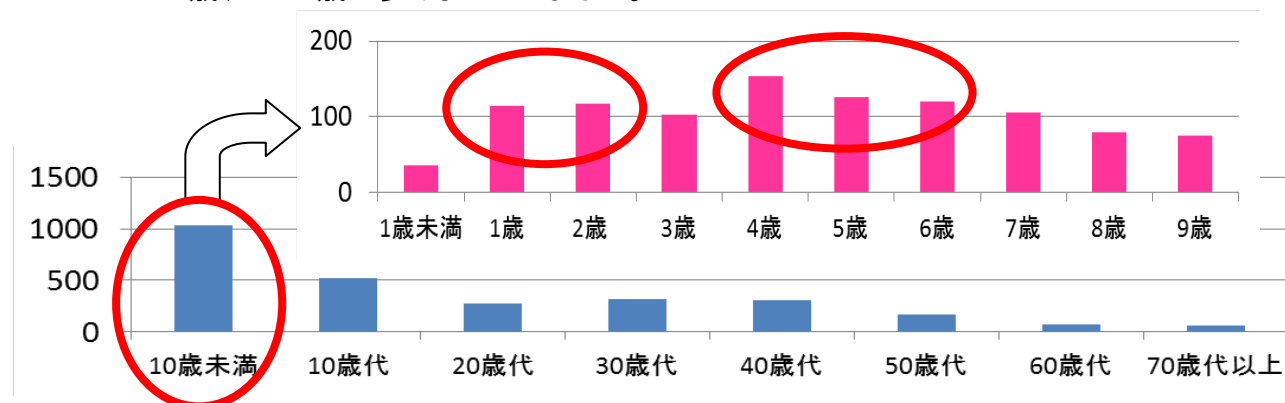


2 区別流行状況: 最も多い区は神奈川区 25.29 で、次に都筑区 25.00 です。13 区で注意報レベルを上回っています。

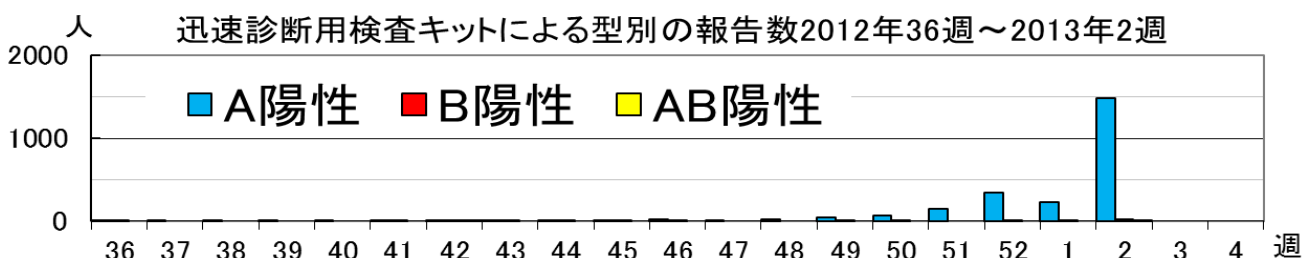


3 市内学級閉鎖等状況:今シーズンは第1週1件、第2週1件の計2件です。ただ、現在第3週に入って報告が相次いでおり、さらなる増加が予想されます。

4 年齢層別集計:直近5週間(第50~2週)の累計では、10歳未満の患者が最も多く、その内訳では4~6歳、1~2歳で多くなっていました。

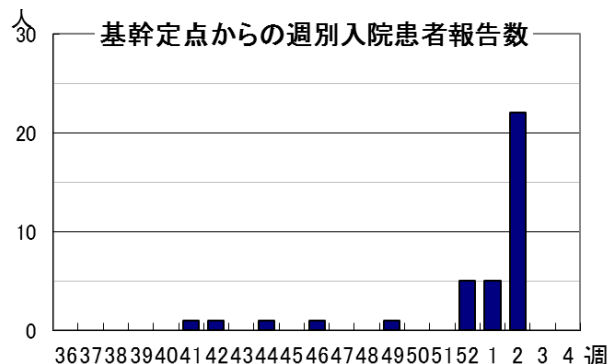


5 迅速キット結果:今シーズンの第2週までの累計では、迅速キット陽性例のうち、A型97.7%、B型2.2%、A、B型ともに陽性0.1%となっています。



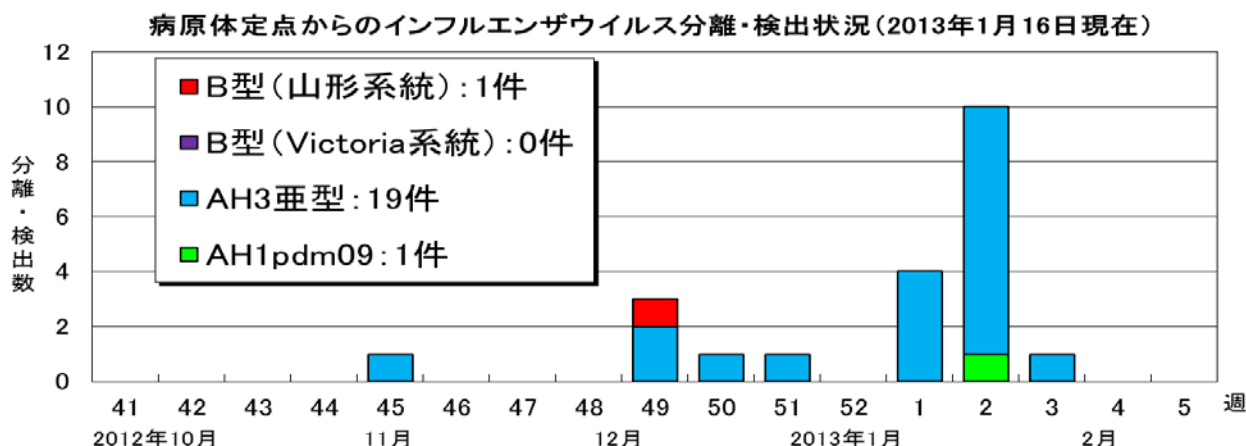
6 入院サーベランス:基幹定点^{※4}医療機関における、インフルエンザの入院患者数の集計では、入院患者数は第2週に入って急激に増加しています。年齢層別(累計)では、10歳未満(37.8%)と70歳以上(37.8%)が多くなっています。

※4 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



7 市内病原体検出状況:今シーズンに入り、市内では病原体定点^{※5}から計21件インフルエンザウイルスが分離・検出されており、そのうちAH3亜型が19件(90.5%)とほとんどを占め、全国と同様の傾向です。また、集団の事例からもAH3亜型が検出されています。

※5 病原体定点...病原体検索の検体採取に協力していただいている医療機関(市内17か所)



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045 (671) 2463

TEL 045 (754) 9815